

NPOエリマネ会員マンション

- ザ・コスギタワー
 - 49階建て 689戸 築4年
 - リエトコート武蔵小杉 ザ・クラッシィタワー
 - 45階建て 542戸 築4年
 - リエトコート武蔵小杉 イーストタワー
 - 45階建て 542戸 築4年
-
- レジデンス・ザ・武蔵小杉
 - 24階建て 389戸 築5年
 - パークシティ武蔵小杉 ステーションフォレストタワー
 - 47階建て 643戸 築4年
 - パークシティ武蔵小杉 ミッドスカイトワー
 - 59階建て 794戸 築3年



玉川地区

丸子地区

3つの町会にまたがる再開発地区



高層マンションの防災

- 建物は堅固。倒壊の可能性は極めて低い。
 - 避難所に行く可能性も低い？
 - マンション内で被災生活がどこまでできるか？

- エレベータが使用できないと移動が困難
 - 高層難民問題
 - 特にトイレは深刻
 - 要援護者を誰が助けられるか

- 近隣に誰が住んでいるか知らないことも多い
 - 災害時の安否確認、助け合いをどこまでできるか

東日本大震災 3.11では

- 5つのマンションが地震直後から停電
- 防災センターはあまり機能せず
- エリアマネジメントが一時自主的避難所に
- 停電復旧までは不安と混乱が続く
- 停電しなかったマンションが他のマンション住民や帰宅困難者を受け入れ

停電しなかったマンションがロビーを開放して他のマンション住民や帰宅困難者を受け入れた



THE KOSUGI TOWER 防災活動

- 建物概要：2008年竣工 49階建て 689戸
- 管理組合の組織として防災委員会、コミュニティ委員会を設置。委員は住民から応募を募る。(2009年)
- 防災委員会を中心に自主防災組織を設立
- 防災委員会とコミュニティ委員会が協力して防災イベントを実施
- 5フロアを1ブロックとして全館を10ブロックに分け、ブロック単位で訓練や交流会を実施

THE KOSUGI TOWER 防災活動

- 1 住民啓発セミナー
 - マンションの防災設備理解/高層マンションの強み弱み
 - 個人の備え/管理組合の備え/地域の特徴
- 2 防災マニュアル作成
 - 役員用マニュアルと全戸配布用簡易マニュアル
- 3 防災訓練
 - 災害時初期対応(安否確認)訓練
- 4 防災備品の購入と試用
 - 通信・運搬・救護を強化/食料・水・簡易トイレは個人備蓄啓蒙へ
- 5 フロア交流会
 - ブロック単位で開催/防災コーナーを設けグループディスカッション

THE KOSUGI TOWER 防災活動

- 個人備蓄状況
 - ・ 7日以上の備蓄をしている 水 12% 食料 9% 簡易トイレ 8%
 - ・ 3日以上の備蓄をしている 水 35% 食料 36% 簡易トイレ 20%
 - ・ 3日未満の備蓄をしている 水 43% 食料 42% 簡易トイレ 47%
 - ・ 準備していない 水 10% 食料 12% 簡易トイレ 25%
- ご近所との付き合い
 - ・ マンション内の友人 いる 49% 顔見知り程度 32% いない 18%
(42) (28) (29)
 - ・ マンション内の交流 増やしたい 47% 現状でよい 44% 必要無し 8%
(60) (30) (8)

23年度 各マンションの防災活動概要

- 個人への啓発
 - 自助・共助・公助の考え方の浸透
 - 食料・水・簡易トイレの備蓄/家具固定/ご近所さんとの交流
- 管理組合(自主防)単位でのワークショップ
 - 防災備品の確認と試用
 - マニュアル作成
 - 大地震を想定した防災訓練
 - コミュニティ形成(フロア交流会等マンション内イベント)
- マンション同士が助け合う体制づくり
 - マンション間連絡用の無線機を配備
 - 防災備品リストの共有
 - マンション合同のお祭り(無線機の練習/防災ゲーム)
- 地域防災の課題解決に向けた働きかけ
 - 避難所の連携方法の検討
 - 救援物資の配送拠点化 給水ポイント/トイレ
 - 帰宅困難者対策

各住戸での行動〈地震 その時 7つのポイント〉

地震時の行動

地震だ！まず身の安全

- ・緊急地震速報を見聞きした時、揺れを感じた時は、身の安全を最優先に行動する。
- ・丈夫なテーブルの下や、「セーフティルーム」（物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」安全な空間）に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。



- *タワーマンションでは、揺れが数分間続くことがある。
- *大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する

安全が確保できたら

落ちついて 火の元確認 初期消火

- ・火の使用時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- ・出火した時は、落ちついて消火する。



あわてた行動ケガのもと

- ・屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。



窓や戸を開け 出口を確保

- ・揺れがおさまった時に、避難できるような出口を確保する。
- (注)火災発生時は、延焼防止のため扉は閉める。



地震直後の行動

設備の安全確認

- ・避難する時は、電気ブレーカーを落とす。
- ・熱を発する機器のコンセントを抜く。
- ・電気、水道、ガスは、安全の確認ができるまで使用しない。



正しい情報 確かな行動

- ・ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。
- ・デマに惑わされない。



地震後の行動

安否確認ステッカーを貼る

- ・揺れがおさまり、安全が確保できたら、「安否確認ステッカー」を住戸ドア外側に貼る。



エレベーターホール前に集合

- ・わが家の安全を確認後、エレベーターホール前に集合する。
- ・フロア連絡係の指示に従います。



フロア各戸の安否確認

- ・皆で手分けして、集合していない各戸を回り、安否を確認する。



各フロアでの活動

協力し合って 救出・救護

- ・転倒家具などでケガをした人を近隣で協力し、救出・救護する。
- ・負傷者や要介護者がいる場合、応急手当をする。



フロアの情報 を ブロック連絡係に報告

- ・フロア連絡係は、フロアの安否状況を「安否確認表」にまとめる。
- ・「安否確認表」を拠点階の連絡係に報告する。



活動終了後

自宅の安全な場所で生活

ブロックの活動

- ・ブロック連絡係は、ブロック内5フロアの安否情報をまとめ、対策本部へ報告する。



対策本部の活動



3. 【被災生活期】2日目以降の活動

詳細はマニュアル
第2編第2章2参照

- ライフライン（電気・ガス・水道）の停止が長期化し、エレベーターが動かないことを想定する。
- マンション内で被災生活をする（受け入れ避難所はない）。



被災生活期のルール/注意点

トイレが 使えない

簡易トイレの個人備蓄
が重要（特に高層階）



ゴミ出しの ルール

ゴミ置き場があふれる
⇒ 各住戸で保管



食料や水が 尽きたら

食料や水などは、お互いに融通し合って生活する。
（中・高層階への物資運搬は困難なため、原則実施しない。）

被災生活期では、フロアの皆で、相互に助け合って生活する。



電気とエレベーターが
復旧したら

【復旧期】平常時の体制に移行

東日本大震災では大きな被害はなかったものの、電気やエレベーターが停止し不便な生活を余儀なくされました。将来より大きな地震が想定されています。各家庭が災害への十分な備えをして、自分や家族の生命を守り、また周囲の方々と助け合うことにより、被害を少しでも減らしましょう。

2012年7月22日発行

THE KOSUGI TOWER 管理組合
防災委員会

引用資料：『みんなの防災ガイドブック』（東京都総務局）・『地震に備えて』（東京都防庁）・『被災行動のススメ』（横浜消防局）

地震への備えと行動

（THE KOSUGI TOWER 防災マニュアル ダイジェスト版）

- ★ 自分と家族を守るのは、家庭での事前の「備え」です。（自助）
- ★ 発災したら、隣近所で協力し、助け合って生活します。（共助）

1. 地震に対する 家庭での6つの備え

詳細はマニュアル第1編参照

非常用品の備え

- ・非常用品は、置き場所を決めて準備する。
- ・食料・水・簡易トイレは7日以上を準備する。



安全空間を確保する

- ・壁高以上の家具を置かない「セーフティルーム」をつくっておく。
- ・ケガの防止や避難に支障のないように家具を配置する。



家具類の転倒・落下防止

- ・家具やテレビなどを固定し、転倒や落下の防止措置をする。



ケガの防止対策

- ・食器棚や窓ガラスなどには、ガラス飛散の防止措置をする。
- ・ケガをしないよう、スリッパを準備。
- ・懐中電灯は停電時にすぐ使える場所に置く。



火災への備え

- ・日頃より、火災の原因をつくらないうよう、十分注意する。
- ・火災の発生に備え、消火器の準備や風呂の水のくみ置きをする。



家族で話し合い

- ・地震発生時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決める。
- ・家族が離ればなれになった場合の安否確認の方法を決める。

